

○総合計画－達成指標分析シート

基本目標	豊かな自然と調和する共生のまち（環境）
施策の柱	環境保護・保全活動

●目指す姿

●市民・事業者・行政が一体となり、環境保護・保全活動に取り組むための「情報発信」や「活動の実践」のための体制が整備されています。  
 ●次代を担う子どもたちに、環境保護・保全、生物多様性について学ぶ場が提供され、子どもを軸に家族が環境について考えるきっかけを持ち、それが実際の活動につながっています。

●事業の達成指標

項目名	現状値	H27	H28	H29	H30	H31	目標値	担当課
（主）日常生活において、環境問題を意識している市民の割合	78.4% (H26)	-	79.3%	-	72.0%		UP	環境政策課
（客）環境教室などへの参加者数（年間）	2,800人 (H25実績)	2,732人	2,965人	3,021人			3,000人	環境政策課

●施策の方向性①環境保護・保全活動の推進

事業番号	31101	事業名	環境保護・保全推進事業	担当課	環境政策課
事業概要	市民が身近にある環境や自然に目を向け、環境問題への認識を深めるための情報提供や、市民や事業所が主体的に環境保護・保全活動に取り組むことができるよう支援を行う。			担当課評価	事業の達成指標に対して概ね順調に進んでいる
現状・課題・対策	<p>【現状】                      環境美化監視員と連携して環境保護・保全に努めつつ、イベントを利用した啓発活動も実施し、環境美化活動の日を中心に市民団体への支援も行っている。                      また、環境問題への認識を深めるための情報提供として、広報紙で啓発する内容を検討し、掲載回数も増やした。</p> <p>【課題】                      環境保護・保全が重要なことは70%以上の市民の方に理解されているが、より積極的な行動を促すためのPRが必要である。</p> <p>【対策】                      従来広報紙やイベントでの啓発活動をさらに充実させるとともに、ウェブサイトに関してもサイトの内容を見やすいように更新し、トピックスに上げるなどして、これまで以上に積極的に活用する。</p>				

事業番号	31102	事業名	環境基本計画策定事業	担当課	環境政策課
事業概要	平成20年度に策定した第1次計画が平成29年度で終了することにもない、新たな計画を策定し、平成30年度から10年間の環境施策の方向性を示す。			担当課 評価	事業の達成指標に対して順調に進んでいる
現状・ 課題・対策	<p>【現状】 環境保護・保全に対する取組みは中長期的なものであるため、継続的に対策を推進している。現在の環境基本計画を継続した内容ではあるが、さらに着実に推進できるよう環境基本計画を策定した。</p> <p>【課題】 市民アンケートなどの結果から、市民が温室効果ガスの削減や環境美化への取組を重要と考えており、これらを考慮のうえ目標値や施策の方向性を策定した新たな環境基本計画に基づき、着実に実施する必要がある。</p> <p>【対策】 新たな環境基本計画に記載した施策について、より多くの市民に取り組んでもらえるよう、わかりやすく具体的な取組として啓発し、取組の充実を図っていく。</p>				

●施策の方向性②環境教育の充実

事業番号	31201	事業名	環境学習事業	担当課	環境政策課
事業概要	環境保護・保全に対する意識の向上を図るため、次世代を担う子どもたちが、環境や自然の大切さを遊びや学習を通じて学ぶ機会を増やすなど、市民が環境について学べる場を充実させる。			担当課 評価	事業の達成指標に対して順調に進んでいる
現状・ 課題・対策	<p>【現状】 環境学習事業である「こども環境教室」では、案内チラシに写真を使用するなど、内容がイメージしやすいように工夫したことで、前年度より参加者を増加させることができ、前年より多くの方へ環境への理解を高めることができた。</p> <p>【課題】 環境教室は、参加希望者が多く抽選を行っているが、河川環境楽園やアクア・トト、協力いただける企業等の会場規模により、参加者の増員が困難な状況となっている。</p> <p>【対策】 市民に環境について学習できる機会を増やすため、こども環境教室以外のメニューとして、出前講座などを充実させたり、子ども環境教室の開催時間帯を変更するなどについて検討していく。</p>				

○総合計画－達成指標分析シート

基本目標	豊かな自然と調和する共生のまち（環境）
施策の柱	循環型社会

●目指す姿

<p>●リデュース・リユース・リサイクル（3R）をこころがけ、ごみを減らす暮らしを実践する循環型社会が実現されています。</p> <p>●リユースやリサイクルできないごみが継続的・安定的に適正処理され、快適な市民生活が維持されています。</p>
--

●事業の達成指標

項目名	現状値	H27	H28	H29	H30	H31	目標値	担当課
（主）ごみを確実に分別し、排出している市民の割合	93.7% (H26)	-	93.9%	-	92.4%		UP	環境政策課
（客）リサイクル率（年間）	29.9% (H25実績)	30.2%	28.4%	28.0%			30.0%	環境政策課
（客）一人一日当たりのごみ排出量	957g (H25実績)	963g	922g	924g			890g	環境政策課

●施策の方向性①循環型社会の形成

事業番号	32101	事業名	リサイクル・再資源化事業	担当課	環境政策課
事業概要	廃棄物の減量と資源の有効活用を図るため、家庭等から排出される再生利用可能なごみの再資源化を推進する。			担当課評価	事業の達成指標に対して概ね順調に進んでいる
現状・課題・対策	<p>【現状】                      緑ごみの再資源化を実施。                      資源回収を実施した団体へ実績に応じた奨励金を交付。                      雑がみ回収を推進するため、広報紙や自治会回覧で啓発を実施。                      古紙の回収量が減少しているが、可燃ごみが増加しているわけではなく、民間の古紙回収業者へ出されていると予想される。よって、把握可能なリサイクル率は落ちてはいるが、実際にはそれ以上の実績があると考えられる。</p> <p>【課題】                      一人一日当たりのごみ排出量も順調に減少してきているが、今後も、ごみの排出抑制について市民に認知してもらい、さらなる取り組みを継続してもらう必要がある。</p> <p>【対策】                      生ごみの水切りや食品ロス削減の啓発活動を今後も実施し、広く市民や事業者にも周知することにより、ごみの減量を図る。雑がみ等資源回収についても啓発を継続し、リサイクル率の向上を図る。</p>				

●施策の方向性②適正な廃棄物の処理

事業番号	32201	事業名	一般廃棄物収集運搬事業	担当課	環境政策課
事業概要	一般廃棄物の適正処理を図るため、家庭からごみステーションに排出される可燃ごみや不燃ごみを収集し、ごみ処理施設に運搬する。			担当課 評価	事業の達成指標に対して概ね順調に進んでいる
現状・課題・対策	<p>【現状】 家庭から排出される可燃ごみや不燃ごみを収集し、ごみ処理施設に運搬。分別ルールが守られていないごみについては、啓発のため、回収せずごみステーションに残しているが、可燃ごみについては、衛生上の観点から、その日の内に回収するよう努めている。</p> <p>【課題】 分別ルール違反品がごみステーションへ出されている。</p> <p>【対策】 今後もルール違反品については、啓発のため、回収せずごみステーションに残し、排出者がわかる場合は、文書等で指導を行う。 また、ゴミ出しガイドブックをPDFでHPに掲載したことや、ごみ出し分別一覧(50音順)も以前より詳細に変更したため、さらに啓発していく。 よくある違反品については、平成32年度のガイドブックの改訂(※5年毎)に合わせ、より周知できるよう、掲載内容を工夫する。</p>				

事業番号	32202	事業名	北清掃センター 施設維持補修事業	担当課	北清掃センター
事業概要	北清掃センターの適切な維持を図るため、必要なメンテナンスを行い、周辺環境に配慮した施設の維持管理に万全を期する。 法等に基づいた適切な維持管理により、施設の安定操業・安全を確保する。			担当課 評価	事業の達成指標に対して概ね順調に進んでいる
現状・課題・対策	<p>【現状】 ごみ焼却施設を適切に維持するために、法令に基づく点検管理と保守運営を図り、長期にわたり安定して操業できるよう計画的な機器類の修繕を行っている。</p> <p>【課題】 焼却施設の寿命は20年程度といわれており、稼動から15年が経過した当該施設も今後、老朽化による設備の故障や不具合が大幅に増えていくと予想されるため、基幹的設備の改良工事が必要な時期に来ている。当該施設の延命化を図るために、更新が必要な設備の選定と事業費及び工事期間の把握を行う必要がある。</p> <p>【対策】 延命化を図るための基本計画を当施設の施工業者及び外部のコンサルタント等を交えて策定しており、基本計画を元に基幹的改良事業を進めていく。また、多大な事業費に係る市の負担分を軽減するため環境省補助を活用するための事務を遺漏なく行う。</p>				

○総合計画－達成指標分析シート

基本目標	豊かな自然と調和する共生のまち（環境）
施策の柱	生活環境

●目指す姿

- 地球温暖化に対し、市民、事業者、行政が一体となり、日々の生活や事業活動において、温室効果ガスの削減に向けて取り組んでいます。
- 本市唯一の水道水源である地下水が安定的に確保され、水質も保全されています。
- 生活排水による河川などへの汚濁負荷が軽減され、快適で衛生的な生活環境が保たれています。
- 特定外来生物が駆除され、地域の生態系が保たれています。

●事業の達成指標

項目名	現状値	H27	H28	H29	H30	H31	目標値	担当課
(主) 家庭でできるCO2削減に積極的に取り組んでいる市民の割合	67.5% (H26)	-	68.2%	-	67.2%		UP	環境政策課
(客) 污水衛生処理率	84.4% (H25末)	87.6%	88.3%	89.8%			91.1%	環境政策課

●施策の方向性①地球温暖化防止対策の推進

事業番号	33101	事業名	地球温暖化防止推進事業	担当課	環境政策課
事業概要	地球温暖化は、異常気象の増加など市民生活に悪影響を及ぼしていると言われる。本市では、平成29年度に「第3次各務原市地球温暖化対策地域推進計画」を策定し、市民・事業所が、この計画に基づいた温室効果ガスの削減に取り組むため、意識啓発を行っていく。			担当課評価	事業の達成指標に対してあまり順調に進んでいない
現状・課題・対策	<p>【現状】 第3次地球温暖化対策地域推進計画の策定、広報紙等への記事の掲載、親子環境教室や産業・農業祭等のイベントでの地球温暖化防止の啓発チラシ配布に加え、従来、県と共催で開催していたエコドライブ教室も、市単独で開催した。</p> <p>【課題】 県は、エコドライブ教室の開催を終了するなど、イベントを縮小傾向にある。家庭での節電や適切な冷暖房の温度調節など、市民が家庭でできるCO2削減の取り組みの割合を上げるため、出前講座などのメニューを充実させていく必要がある。</p> <p>【対策】 出前講座のメニューに新たに「地球温暖化防止対策」に関する講座を追加するなど、平成29年度に策定した「第3次地球温暖化対策地域推進計画」を基に、温暖化防止に関する啓発活動を継続的に実施していく。</p>				

●施策の方向性②地下水の保全・管理

事業番号	33201	事業名	地下水保全事業	担当課	環境政策課
事業概要	本市の地下水は、水道水をはじめ、工業用水などで利用されている。その貴重な資源である地下水を保全するため、水位と水質の監視を行う。			担当課評価	事業の達成指標に対して順調に進んでいる
現状・課題・対策	<p>【現状】 地下水の水質について97箇所(市観測井7箇所、民有井90箇所)で測定し、硝酸態窒素汚染区域が拡大していないことを確認するとともに、水位についても127箇所(市観測井7箇所、民有井120箇所)において、年1～2回(渇水期・放水期)の測定を実施している。</p> <p>【課題】 硝酸態窒素汚染の防止はニンジン生産農家の協力のもと、過剰な施肥を抑制するとともに、長期にわたる経過観察を実施する必要がある。将来の地下水水源・水質確保が損なわれることを防ぐため、肥料による汚染が広がらないよう広域的に監視する必要がある。</p> <p>【対策】 地下水の水質と水位の測定を定期的実施し、いち早く地下水の異常を発見し、データによる根拠をもって適切な対応ができるように観測していく。</p>				

●施策の方向性③生活排水対策の推進

事業番号	33301	事業名	水質汚濁防止推進事業	担当課	環境政策課
事業概要	生活系排水による河川の水質汚濁を防止し、生活環境の保全を図るために、浄化槽の設置費用の一部を補助し、浄化槽の設置整備を推進する。7年以内下水道の整備予定のない区域を補助対象として、既存住宅の排水水質改善を目指すもの。			担当課評価	事業の達成指標に対して順調に進んでいる
現状・課題・対策	<p>【現状】 下水道の整備に伴い、合併浄化槽補助対象区域が減少し、補助件数は減少傾向となっている。単独浄化槽撤去費用の補助については、広報紙によるPRのほか、制度対象区域となる自治会の回覧を利用してPRを行い、増加している。</p> <p>【課題】 浄化槽の設置・更新には自己負担を伴うことから、ほとんどが建て替え時に活用される状況となっている。また、対象地域を絞ったPR展開のため、自治会の班単位まで区域を選定し回覧を行ったが、班の区域と補助対象区域が一致せず、周知に苦慮した区域があった。</p> <p>【対策】 補助制度の周知方法について、広報紙によるPRを継続しながら、制度対象区域に絞って効果的に周知できる方法を再検討する。</p>				

事業番号	33302	事業名	し尿処理施設維持補修事業	担当課	クリーンセンター
事業概要	老朽化した施設を維持し安定的に稼働させるため効率的な維持補修を行う。			担当課 評価	事業の達成指標に対して順調に進んでいる
現状・課題・対策	<p>【現状】 老朽化した施設を安定的に稼働させるために計画的に維持補修を行っているほか、職員の点検等によって老朽箇所の早期発見・修繕に努めている。</p> <p>【課題】 故障等が起きた場合、設備を停止し故障の復旧に努め、故障箇所によってはし尿・浄化槽汚泥の搬入を止めなければならず、市民生活に支障をきたす可能性があることから、老朽化に応じた高頻度の点検が必要となっている。</p> <p>【対策】 職員の点検等により、老朽化した設備・機器を早期発見し修繕を行うことによって適切に施設の運転管理に努める。またクリーンセンター機能検査等の結果を参考に施設全体の効率的な修繕計画を立案・実行し安定的な施設管理を行う。</p>				

事業番号	33303	事業名	し尿処理施設改修事業	担当課	クリーンセンター
事業概要	老朽化した施設について、処理体系の見直しを含め、効率的な改修を実施する。			担当課 評価	事業の達成指標に対して順調に進んでいる
現状・課題・対策	<p>【現状】 老朽化した施設の機能保全と長寿命化を目的とした基幹的設備改良工事の実施に向け、工事発注仕様書の作成業務を実施した。</p> <p>【課題】 本工事は現施設を稼働しながら行うことから、し尿・浄化槽汚泥の搬入継続に十分に配慮する必要がある。</p> <p>【対策】 し尿・浄化槽汚泥の搬入に支障が無いよう、工事工程について施工業者との十分な協議を行い、安定的な施設稼働を確保しながら工事を実施していく。</p>				

●施策の方向性④特定外来生物の駆除と生物多様性の保全

事業番号	33401	事業名	特定外来生物対策事業	担当課	環境政策課
事業概要	<p>特定外来生物による被害を防止するため、市民や関係機関と連携し、生息地域の拡大防止や駆除を実施する。特に、アルゼンチンアリについては、一斉防除等を実施し、アリの個体数の減少と生息範囲の拡大防止を図る。</p>			担当課評価	事業の達成指標に対して順調に進んでいる
現状・課題・対策	<p><b>【現状】</b>                  特定外来生物であるアルゼンチンアリについて、自治会と協働して防除活動を行っている。                  緑苑地区については、森林環境税を財源とする県の補助を活用し、アリの絶滅を目指して防除活動に取り組んでいる。</p> <p><b>【課題】</b>                  鵜沼東部地区については、アルゼンチンアリの個体数の減少を図ることはできたが、生息範囲は少しずつ拡大しており、防除の強化が必要な状況となっている。</p> <p><b>【対策】</b>                  生息区域拡大防止のために、自治会、木曽川上流河川事務所などの関係者と引き続き連携し防除に取り組む。また、鵜沼東部地区においては、県の補助を新たに活用し、根絶を目指すモデル事業(毎月防除)を行う。</p>				